

今年度第一回目の Newsletter です

巻頭言

「探究を楽しんで！！！」

教育企画推進部長 戸塚 剛

皆さんが社会に出るころ、世の中は今以上に大きく変化しているでしょう。人工知能（AI）の進歩、国際情勢の変化、環境問題の深刻化など、私たちを取り巻く社会は、これまでの常識だけでは対応できない課題に満ちています。経済産業省や世界経済フォーラムなども、これからの時代に必要なのは、与えられた課題を正確にこなす力だけではなく、「自ら問いを立てる力」「課題を発見する力」「新しい価値を創り出す力」であると示しています。正解が一つとは限らない時代においては、自分で考え、判断し、行動する力がこれまで以上に求められています。本校は、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、すべての生徒が探究活動に取り組める教育課程を整えています。

「変化を恐れず、新たな視点で課題を見つけ、解決し、社会に貢献できる人材の育成」を目標に、日々プログラムの改善を重ねています。探究では、興味・関心を出発点に、問いを立て、仮説を立て、調査し、考察し、その成果を発表します。この過程を通して、知識を覚えるだけでは得られない、本質を見抜く力や他者と協働する力が育まれます。この通信では、その学びの様子や成果を皆さんに伝えています。「長田高校の魅力」は、生徒が主体的に学校をつくっていることです。文化祭や体育祭、日々の委員会活動においても、「どうすればもっと良くなるか」を考え、仲間と協力しながら新しいことに挑戦しています。これはまさに探究そのものです。部活動においても、練習方法を工夫し、課題を分析し、より高い目標に向かって試行錯誤を重ねていることでしょう。探究は特別な活動ではなく、皆さんの学校生活の中にすでに息づいています。「なぜだ

ろう」「本当にそうなのだろうか」「もっと良くできないだろうか」という問いを持つことから、すべての学びは始まります。問いを持ち、考え、試し、振り返る。その積み重ねが、未来を切り拓く力になります。ぜひ探究を楽しみながら、自分自身の可能性を広げてください。

「SSH を活用して自分の可能性を広げよう」
教育企画推進副部長 SSH 主担当 梅津亜希子

長田高校では、令和 4 年度より SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校として、探究活動を中心にさまざまな学びを支援しています。

探究の授業では、大学や専門機関から専門家をお招きして講演や助言をいただくほか、実験機器や研究環境の整備を進めるなど、長田高校で学ぶすべての生徒が、より深く考え、挑戦できる環境づくりを進めています。

探究活動は、次のようなステップを踏んで進めていきます。

1. 興味や違和感を見つける
「なぜだろう」「本当だろうか」と感じたことに目を向ける。
2. 問いを立てる
調べたいことを具体的な問いにする。
3. 仮説を立てる
「おそらくこうではないか」と自分なりに考える。
4. 情報を集め、調査する
文献調査、実験、アンケート、インタビューなどを行う。
5. 分析し、考察する
集めたデータを比較し、傾向や理由を考える。
6. 結論をまとめる
問いに対する自分なりの答えを整理する。
7. 発表し、共有する
ポスターやスライド、論文などを通して成果を伝える。
8. 振り返り、次につなげる
改善点を見つけ、新たな課題へとつなげる。

生成 AI の急速な発展に象徴されるように、これからの社会は、先行きを予測することがますます難しくなっています。こうした時代だからこそ、既存の

答えを求めるだけでなく、自ら問いを立て、試行錯誤しながら「答えのない課題」に向き合う力を身につけてほしいと考えています。

探究のテーマは、特別なものである必要はありません。日常の中でふと感じた疑問や違和感こそが、探究の出発点になります。「これってなぜだろう」と思ったその瞬間を大切にしながら、まずは身近な問いから挑戦してみてください。

また、本校では探究活動だけでなく、国際交流プログラム、大学や研究機関・企業への訪問、外部発表会への参加、ビジネスコンテストや科学オリンピックへの挑戦など、さまざまな学びの機会を用意しています。こうした経験を通して、自分の興味や可能性を広げ、これからの進路や将来について考えるきっかけにしてほしいと思います。

Next Generation's Challenge

3月30日(月)～4月3日(金)の日程で、1年生類型生徒全員と一般クラスの希望者を対象に、「探究の手法を英語で学ぶ5日間英語漬けのプログラム」を実施しました。



このプログラムは株式会社ISAの開発によるもので、本校は全国に先駆けて特色類型で導入し、今年度で4回目を迎えています。

講師・グループリーダー(留学生)計8名で実施されました。「Visual Thinking」「Design Thinking」「Storytelling」の3つの手法を英語で学び、日本やグループリーダーの出身国が抱える課題をこれらの3つの手法を用いて解決策を検討し、その内容をプレゼンテーションするというものでした。

このプログラムを通して学んだことを、2年生での探究活動に活かしていこうという感想が多くの子供から聞かれました。

＜生徒の感想から＞

写真を見たりインタビューをしたりして課題を発見する活動があったが、その切り口というのはほんとうに様々なあるんだなと思った。インタビューす

るときは質問の質が高くないと答えの質問も高くならなかったの、インタビューの仕方は考え直す必要があると思った。

I noticed that there were a lot of problems around us which I wasn't aware of. By using VTS, I found issues in pictures and was able to know the way others see the same pictures. I realized that I should speak English more without worrying about how I would be seen from others. I would like to use VTS in my daily life, think of solutions, and share them.

特別講義の紹介

4月23日(木)「探究をはじめるとあたって」

神戸大学 大学教育推進機構

教授 石川 慎一郎 先生(高40回)

81回生(1年生)320名を対象に行われました。石川先生は、長田高校のOBであり、言葉や文章を大量のデータとして分析し、そこから客観的な根拠



を見つける「コーパス言語学」の第一人者です。これから探究活動を進めていくうえで必要となる考え方や視点について、わかりやすく丁寧に、そしてユーモアを交えながらお話してくださいました。

＜生徒の感想から＞

私は最初、探究活動をすると言われても今いちピンときていませんでした。“実験や話し合いを通して自分が決めたテーマを究めていく”というなんとなくのイメージは脳内にあっても、そもそものテーマは何にするべきか、どこに注目して探究を進めるべきかは、はっきりとしていませんでした。今回の石川先生の講義を受けて私は探究活動に対する気持ちや考えが大きく変わりました。探究活動をする上で大切な4C+1E(数える、比べる、インタビューする、アンケートする、実験する)を教わり、実際に自分から動き、自分で考え、相手にもわかりやすく説明し、理解してもらうことが重要だと感じました。また、そのためにはオハイオ(面白い、初めて、意義と意味がある、驚く)の要素が欠かせないと考えました。これから探究入門を通じて自分の探究テーマを決めていく上で、どうすれば多くの人から興味を持ってもらえるか、また、どのように進めていくのかを具体的に考えながら、授業や講義に励んでい

きたいと思います。

石川先生の講義を受けて、何でも探究のテーマにできる可能性があることを学びました。私は人文数理探究類型に入っても、実際に探究のテーマをどう設定すればよいのか、どのような手順を踏んで探究していけばよいのか、具体的なイメージを掴めていませんでした。でも先生の講義の中にあった寿司と人文科学や自然科学をテーマにした探究の具体例を聞いて、身の回りにある些細な「不思議」に敏感になって調べようとする姿勢があれば、探究のテーマがぐんと見つかりやすくなることに気づきました。また、探究において重要な「おはいお」や探究の進め方である「4C+1E」についても聞いて、見ている人に驚きを与えられるような探究をする必要があることや、詳しいことは専門家に聞けばいいということを知りました。私の中で探究に対するハードルが下がり、個人研究をするのがとても楽しみになりました。早速いくつかの探究のアイデアが浮かんでいます。そのアイデアのどれもが中学生の時には調べようと思えなかったことですが、高校ならお金の補助があったり、実験器具が豊富だったりして、豆電球を30個買うことや、樹脂でコップの型を量産することが出来るため、より大がかりな探究ができると思います。自分だけの新しいアイデアで世の中を今より少しでも幸せにできるように頑張りたいです。

5月18日(月)パブリックスピーキング講演会 「英語スピーチとプレゼンテーションの技法」 神戸市外国語大学名誉教授・甲南大学教授

(元本校 PTA 会長) 野村 和宏 先生



81回生(1年生)320名を対象として、考査中の時間を借りて行われました。野村先生は長年第一線で英語教育に関わってこられた方ですが、本校生徒の保護者としてPTA会長を務められたご経験もあり、毎年長田生に対して英語スピーチに関するノウハウの数々

を、動画や実例を交えながらわかりやすくご教授いただいています。今回も生徒諸君は多くの刺激をいただいたようです。これからの英語の授業や探究活動の最終発表の場としての英語プレゼンコンテストなどで大いに役立つと思われます。

<生徒の感想から>

I want to further deepen my understanding of how to speak clearly and confidently in front of others. I also want to learn more about how to express my ideas in a way that is easy for the audience to understand.

I learned a lot from your speech. I want to go to France and German in the future. So I need to study French and Germany. I'm going to use your today's speech as a reference. Thank you so much that you've tell us a lot of things. I hope that I can improve my languages skill.

英語でスピーチをする場合も日本語でスピーチをする場合も重要なのはどれだけ聴衆に「語りかける」ことができるのかと言うことなのだとわかりました。また、「語りかける」ためには忘れない、アイコンタクト、などの他にも多数のことを同時に実行しないといけないということも理解しました。理数探求が進めばスピーチをする事もあると思うので、その時は今日学んだことをしっかりと生かしていきたいです。

英語はスポーツや音楽と同じで、練習しないとその知識が身体につくことがないということを知って、アウトプットを頑張りたいと思った。英語の授業でパートナーと英語でコミュニケーションをとる機会があり、今まではあまり乗り気ではなかったがこれからは英語に慣れたりスピーチの練習につながったりすると思うので前向きに取り組みたいです。英語でうまく表現しようとスピーチ中や会話中に黙り込んでしまうことがよくあるのでジェスチャーで表現するなどスピーチの流れを止めないようにしたい。

各探究授業の報告

4月16日(木)6時間目、30日(木)6時間目 1年1組～7組「理数探究基礎」オリエンテーション1・2 戸塚 剛

今回の「理数探究基礎」の授業では、「理数探究基礎とはどのような科目なのか」について説明しました。中学校にはなかった新しい科目であるため、この科目の目的や、授業でどのような活動を行うのかを、具体例を交えながら紹介しました。特に、「自由研究」と「課題研究」の違いについて詳しく説明しました。自由研究は自分の興味や関心に基づいて調べる活動であるのに対し、課題研究は、問いを立て、仮説を立て、データを集めて分析し、根拠に基づいて結論を導くという、より科学的・論理的な探究活

動です。生徒たちは、理数探究基礎が単に調べ学習を行う科目ではなく、答えのない問いに挑戦し、自ら考え、検証し、表現する力を育てる科目であることを理解しました。今後の授業を通して、探究の進め方を学び、自分たちの課題研究へとつなげていきます。

4月14日(火)・5月12日(火)5・6時間目 2年1組～7組「総合的な探究の時間」

1年生のときからグループ編成を進めていたため、探究してみたいテーマごとに班が構成されており、スムーズに活動を開始することができました。たくさんのテーマがあり、生徒たちが実にさまざまなことに興味・関心をもっていることを、改めて実感しました。生徒たちは、班編成や探究テーマの決定を進めるとともに、具体的な問いを数多く出し合い、研究の方向性を明確にしていました。「テーマが決まった」「問いを立てることができた」「研究の見通しが立った」といった感想が多く見られ、探究活動の第一歩を着実に踏み出せたことがうかがえます。また、「いい感じに進んでいる」「かなり進んだ」「正直ほっとしている」といった声もあり、仲間と協力しながら、自分たちの興味・関心を形にしていくことへの達成感や、これからの研究に対する期待と楽しさが感じられました。

4月17日(金)6限 2年8組 探究A



近藤 由里香

探究Aの授業では、年間を通して「英語での発信力」と「英語での質疑応答力」の向上を目標にしています。1学期は、

英語の文献を読み解き、その成果を班ごとに発表します。2・3学期には、自分の探究テーマについての発表を予定しています。毎時間の授業では、ALTの先生方との実践的なやり取りを通して、英語での発信力や質疑応答力を鍛えています。専門用語に苦戦しつつも、英語で「分かりやすく伝える」ためにどうしたらいいのかを一生懸命考えながら、6月下旬の発表に向けて、準備を進めています！

人文・数理探究類型 英語ポスターセッションのお知らせ

日時：令和8年6月13日（土）

10：00～12：40

場所：本校3階 HR 教室、講堂

講師：

Mr. Paul Cassidy, Ms. Nadia Gifford (長田高校)

Mr. Conor O'Loughlin (神戸高校)

Mr. Henry James Snell (姫路東高校)

植松啓 先生 (研究ラボ主宰)

川崎志慧先生 (株式会社村田製作所)

内容：

人文・数理探究類型3年生が探究の成果を、ポスターを用いて英語で発表し、質疑応答を行います。

＜発表時間と方法＞

グループ発表の部 発表5分、質疑応答・助言10分、移動5分（合計20分）

個人発表の部 発表5分、質疑応答・助言5分、移動5分（合計15分）、合計7回のローテーション。

＜指導助言＞

本校ALTを含む英語話者が、発表内容について質疑応答・指導助言・講評を行います。

※類型生徒は3学年とも全員参加ですが、一般クラスの皆さんも探究の参考になるとと思いますので、ぜひ自由に発表を覗いてみてください！

編集後記

4月に新学期がスタートしたとたん、六甲山縦走、文化祭、中間考査、県総体と怒涛のように行事が続き、あっという間に6月になりました。先月末から気温が30度を超える日もあり、すでに本格的な夏がやってきたようです。一方、忙しい行事の合間に探究活動もスタートしました。3年生にとってはこれまでの探究の集大成の場がやってきますし、2年生はいよいよ本格的な探究活動が始まっています。1年生はこれからの探究に備えて十分に意識を高めてほしいと思います。このニュースレターは不定期ですがそのような探究活動と国際理解関係行事の報告を行っていきます。